

医療機関における AI 技術活用促進事業 事業成果報告書（令和 6 年度分）

開設者	医療法人社団景星会赤羽
医療機関名	赤羽東口病院
病床数	73床(一般45床 療養28床)
職員数	180名（医師40名非常勤含 看護師72名 他68名）
病床機能	急性期 慢性期
標榜診療科	内科 循環器内科 闘病内科 血液内科 神経内科 アレルギー科 心療内科 泌尿器科 救急科 外科 脳神経外科 胃腸大腸外科 消化器外科 内視鏡外科 整形外科 リハビリテーション科 乳腺外科 麻酔科
事業経費	17,541千円
事業実施期間	令和7年1月15日～令和7年3月31日
取組前の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①電子カルテ記載業務負担</li> <li>②入退院業務負担（看護サマリ・退院サマリ作成負担）</li> <li>③紹介状作成負担</li> <li>④患者様向け説明記録の作成業務負担</li> <li>⑤議事録等の作成業務負担</li> <li>⑥生成AIシステム導入経験のある人材不足</li> </ul>
	<p>&lt; 事業概要・目的（全体） &gt;</p> <p>当院は医師・看護師の働き方改革の推進とともに、患者サービスの向上を目的として生成AIシステム・コンサルティングサービスを導入した。具体的には診療時のカルテ記載業務や退院サマリ等の文章作成業務について生成AI活用により効率化を図った。</p> <p><b>【ユビーメディカルナビ生成AI】</b></p> <p>業務効率化向上を目的とした病院対象の生成AIサービス。文書生成・文書要約のほか、音声認識・画像認識などの機能を活用可能。文章生成・文章要約機能では電子カルテ情報をコピー＆ペーストで生成AIサービスに入力することで、退院サマリや看護サマリの作成補助が可能。また、画像認識機能によりお薬手帳や紹介状の文字起こしと要約を実施することで電子カルテへの転記作業の効率化が可能。音声認識機能により音声データを録音・文字起こし・要約を行うことで、院内会議の議事録を院内へ共有することの効率化や患者様へ口頭で行う病状説明等の要約内容を電子カルテへの記録することの効率化が実現可能。</p> <p>職員数医師20名、看護師50名、事務その他70名のうち、生成AIは医師5名、看護師35名、事務その他10名程度で利用を予定し、事業を開始した。</p> <p>インターネット端末を医事課事務室に設置し、医事課において紹介状作成業務、議事録等の作成業務を実施した。また、電子カルテ端末を診察室に設置し、電子カルテ内のデータを生成AIに入力してサマリ作成業務等を行うことを想定した。</p> <p><b>【ユビーコンサルティングサービス】</b></p>

取組内容

(導入した機器  
やシステムの製  
品概要)

上記サービスを導入するにあたり院内のコンサルティングを行うサービス。コンサルティングの内容としては、要件定義コンサルティングと導入支援コンサルティングを実施した。

・要件定義コンサルティングでは、生成AIの導入効果を高めるためにシステム導入前の準備として以下を行った。

①現場ヒアリング（サービス導入を検討する前提としての課題ヒアリング）

②生成AIシステム活用余地の可視化（各サービスの活用余地が高い業務領域に関して各現場の現在の業務を可視化・導入シミュレーション実施）

③利活用方法の提案（①・②を踏まえ最適な活用領域の探索・可視化・導入に当たったのロードマップ作成）

・導入支援コンサルティングでは、生成AIシステムを実際に導入する際に必要情報の整理・文書作成・説明会を行った。

①生成AIシステムの個別カスタマイズ設定支援（業務内容やシステム環境に合わせた形で生成AIシステムの個別カスタマイズ設定を行う）

②生成AIシステムの説明会の実施支援（院内職員に対して生成AIの基本的な仕組みや活用方法に関する説明会を実施）

③生成AIを活用した新たな業務フロー設計支援（生成AIを活用可能な業務領域において詳細な業務単位で最適な業務プロセスを設計）

④マニュアル作成支援（設計した新たな業務プロセスに基づき職種や業務ごとにマニュアルを作成支援）

⑤マニュアルを用いた説明会の実施支援（作成したマニュアルに基づき実際に生成AIを活用しながらシステムの操作説明会を実施）

⑥業務変更リハーサル支援（新しい業務プロセスへの移行をスムーズに行うため本番稼働前にリハーサルを実施し問題点の洗い出しや改善の実施支援）

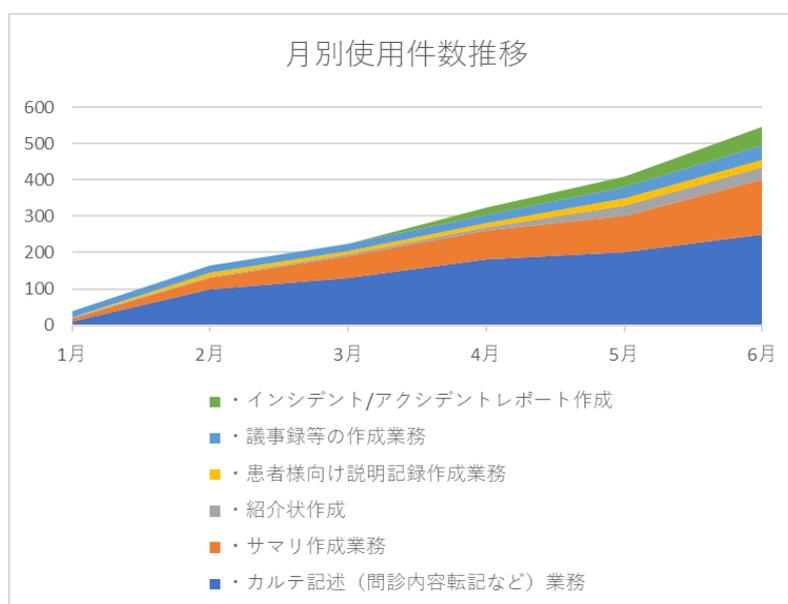
⑦プロジェクト管理（生成AI活用プロジェクトの全体管理を行い進捗状況の可視化や課題解決を支援）

患者IC時の記録作成、入院時の書類作成、治療の経過をまとめたサマリの作成、インシデント/アクシデントレポートの作成アシスト、会議議事録の作成など利用する場面は多岐にわたり、利用件数も月に350～400件程度利用しています。使用感をコンサルタントと調整中のため、今後はさらに利用頻度が増えていく予定です。

利用件数の内訳と業務内容別仕様職種

業務内容	件数	職種
・カルテ記述（問診内容転記など）業務	200件	医師・看護師
・サマリ作成業務	100件	看護師
・紹介状作成	30件	医師
・患者様向け説明記録作成業務	20件	医師・看護師
・議事録等の作成業務	30件	事務その他

取組の実績  
（具体的な活用  
場面、利用頻  
度、利用件数）

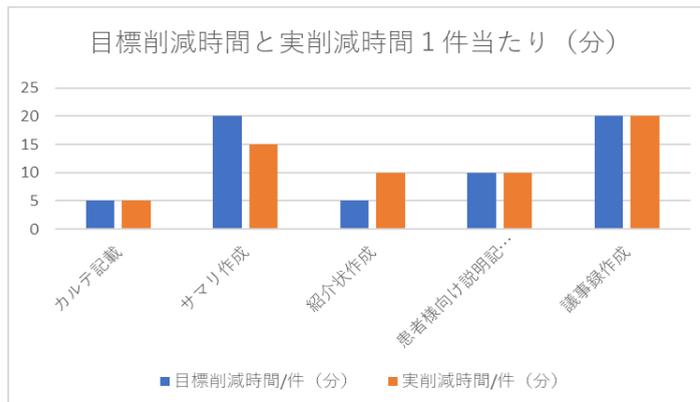
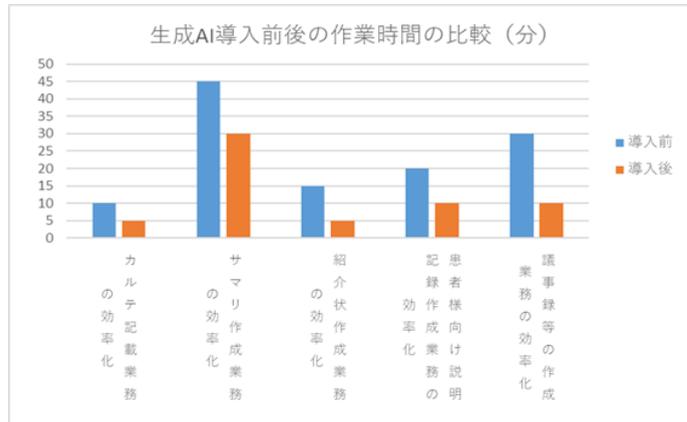


【コンサルを併用した効果】

生成AI使用において要となるプロンプト生成・ワークフロー生成をコンサルタントしてもらうことで、業務上どのように取り入れていくかのアイデアや、このようにしたいというものを実現ができたと同時に、職員への生成AI使用を自然な形で利用するに至ることができた。通常業務をしながら生成AIについて一から勉強し試行錯誤する時間を捻出することは不可能なためコンサルの併用が無ければ導入はできなかった。

### 【生成AIシステム活用によって得られた効果】

- ・カルテ記載業務の効率化・・・現状10分/件から5分/件へ削減（5分削減）
- ・サマリ作成業務の効率化・・・現状30～60分/件から15～45分/件へ削減（15分削減）
- ・紹介状作成業務の効率化・・・現状15分/件から5分/件へ削減（10分削減）
- ・患者様向け説明記録作成業務の効率化・・・現状20分/件から10分/件へ削減（10分削減）
- ・議事録等の作成業務の効率化・・・現状30分/件から10分/件へ削減（20分削減）



取組の効果  
 (導入前後の比較データや患者目線の効果などもあれば併せて記載)

**【生成AIシステム活用による実削減時間】**

- ・カルテ記述（問診内容転記）業務・・・5分/件×200件/月=16.7時間/月
  - ・サマリ作成業務・・・15分/件×100件/月=25時間/月
  - ・紹介状作成・・・10分/件×30件/月=5時間/月
  - ・患者様向け説明記録作成業務・・・10分/件×20件/月=3.33時間/月
  - ・議事録等の作成業務・・・20分/件×30件/月=10時間/月
- 月ごとの削減時間合計60.03時間/月

目標削減時間と実削減時間 (h)	目標削減時間 (h)	実削減時間 (h)	達成率
カルテ記載	160	16.7	10.44%
サマリ作成	11.5	25	217.39%
紹介状作成	25	5	20.00%
患者様向け説明記録作成	16.7	3.33	19.94%
議事録作成	6.5	10	153.85%
合計	219.7	60.03	27.32%

- ・コンサルティングサービス活用によって得られた効果
- ・要件定義業務のアウトソースと所要期間短縮・・・院内職員実施の場合：60時間/月・所要期間2ヶ月・総工数120時間から、コンサルタント実施の場合：40時間/月の稼働・所要期間1ヶ月・総工数40時間へ削減
- ・システム導入業務のアウトソースと所要期間短縮・・・院内職員実施の場合：100時間/月・所要期間3ヶ月・総工数300時間から、コンサルタント実施の場合：59.3時間/月の稼働・所要期間3ヶ月・総工数178時間へ削減
- ・コンサルティングサービス活用による目標削減時間
- ・要件定義業務・・・職員の工数120時間削減・1ヶ月の所要期間短縮
- ・システム導入業務・・・職員の工数300時間削減

予測総工数(h)	目標削減時間(h)	実削減時間(h)	達成率
120	80	80	100%
300	122	122	100%

導入に伴う課題と対策	<p>ユビーメディカル生成AIを単なる道具としてではなく、医療プロセスを支援するパートナーとして受け入れるための意識改革が必要です。ユビーメディカル生成AIは電子カルテ上のシステムではないため、文書入力する際や生成された文書を取り込む際に、AIアプリと電子カルテ間で手動でコピー＆ペーストをする作業が生じるなどの非効率な面があります。また用意されたプロンプト以外で命令を出す場合に意図しないものが出力されるなど、指示の出し方の難しさなども課題としてあげられます。プロンプトの作成方法・AI活用方法のレクチャーや、事前のテンプレートを数多く用意し、様々な場面に対応できるようにするなどの対策を行っています。</p>
今後の展望・課題	<p>生成AIを活用し、スタッフの負担軽減をしつつ、生じた時間で患者ケアを手厚く実施していくという意識や雰囲気醸成、その環境の継続ができるように、新しい活用方法を模索することと意見聴取を積極的に行い。随時アップデートをしていくことが必要と考えます。</p>